

国立大学法人兵庫教育大学

学 報

第399号 平成27年 1 月



平成26年度日本教職大学院協会研究大会を開催
(関連記事5ページ)



日本文化研修旅行－日本人学生との交流を通して日本文化を学ぶ－を実施
(関連記事7ページ)



全国市区町村教育長セミナーを開催 (関連記事8ページ)

目 次

- ◇年頭挨拶.....2
- ◇学 事.....4
 - ・ 寄附金
- ◇人 事.....4
 - ・ 人事異動
- ◇諸 報.....4
 - ・ 国立大学法人兵庫教育大学役員会
 - ・ 国立大学法人兵庫教育大学教育研究評議会
 - ・ 兵庫教育大学大学院学校教育研究科・学校教育学部教授会
 - ・ 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科代議委員会
 - ・ 平成26年度日本教職大学院協会研究大会を開催
 - ・ 附属幼稚園第3回幼年教育研究会を実施

- ・ ボランティアステーション主催講演会を実施
- ・ 附属幼稚園5歳児と附属中学校3年生との芋掘りによる交流を実施
- ・ 子育て支援ルーム「GENKi」わくわくデーを実施
- ・ 日本文化研修旅行－日本人学生との交流を通して日本文化を学ぶ－を実施
- ・ 加東市職員と本学職員の交流研修会を実施
- ・ 第16回図書館総合展ポスターセッションで特別賞を受賞
- ・ 全国市区町村教育長セミナーを開催
- ・ 平成26年度ホスピタリティ研修報告会を開催
- ・ 小講堂（仮称）の建物名称及び愛称の決定について
- ◇主要日誌.....10

— 年 頭 挨拶 —



学 長 加治佐 哲 也

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

平成27年が始まりました。平成27年は法人化第2期の最終年です。正確には27年度で終わるわけですが、実質的には暦年の27年で終わりということになります。これが1点大きな意味があります。もう1点は、当然ながら大学は存続しますので、第3期に向けての準備を加速させる1年ということでもあります。

まず1点目の法人化第2期の仕上げ、まとめの期間であるということについてです。ご存知のように、第2期の中期目標・中期計画につきましては、毎年の年度評価の評価結果に表れておりますように、「おおむね順調」と判断してよいと思います。いろいろ取り組みがなされて、成果をあげていると思います。

具体的にはたとえば、様々な研究プロジェクトを文部科学省などから獲得して着実に実行され、それが改革に繋がっています。学生の出口については、教職大学院や学部の教員就職率は、キャリア支援センターや先生方の努力によって、高い率をあげております。国際交流は、交流協定大学がたくさん増え、多くの交流が生まれて活性化しております。学習環境は、この間に格段に整備されたと思っております。外部研究資金の申請件数の数値目標は毎年達成されております。このように、一定の成果は着実にあがっていると思います。

ただ、この間に、我々の一番大切な学生に大きな変化が感じられ、それによる学生指導が非常に増えております。これにつきましても、学生委員長や学生支援課の努力によって、適切に対応がなされているということでもあります。

いずれにいたしましても、残り1年を第2期の中期目標・中期計画の仕上げに向けて、気を抜くことなく、是非ご努力いただきたいと思っております。この結果が、第3期の運営費交付金に確実に反映します。

それから、2点目の第3期に向けての準備ということについてです。平成28年から33年までの6年間は第3期となります。皆さんご存知のとおり法人化が行われて10年以上経ちました。来年度を過ぎますと12年が経つわけです。第3期からは、国立大学法人のありようというものが大きく変わるとされております。その一つの象徴が、運営費交付金の変化です。運営費交付金の配分の基準と方法が大きく変わると言われております。文部科学省は法人化第3期が始まるまでの期間を改革加速期間としています。この改革加速期間に各大学がどれだけの改革を進めたかということが、第3期の運営費交付金に大きく影響を与えるということになっています。おそらく何もしないところは大変なことになると思います。

本学で一番大事なのは、大学院の改革です。とりわけ、修士課程の教科教育分野のカリキュラムを実践化すること、具体的には教科専門と教科教育法を架橋する科目を増やすとか、学校実習の科目を導入することが必要です。また、市町村教育長養成コースを創設するなど、教職大学院の拡充を進めなければなりません。連合大学院博士課程の入学定員増が認められそうです。また、これは学部、大学院全てに当てはまりますけれども、アクティブラーニングを取り入れた授業をもっと増やす必要があります。このような改革を進めていって第3期に繋げるということなのです。

それから、年俸制の導入です。年俸制が第3期までに準備されているかどうかということも大きく影響すると言われております。これについて本学はすでに準備をしております。

運営交付金への影響要素として表出しされているものがもう一つあります。お聞きになられたことがない方もおられるかもしれませんが、是非「IR」という言葉を覚えておいていただきたい。IRとはInstitutional Research (インスティテューショナル・リサーチ)です。なかなか日本語に訳すのは難しいですが、大学が持っているデータを集積して、それを分析して、改革・改善のための新たな施策を打つ。つまり、その根拠

となるデータを集める組織作りとか、そのような組織の運営をやりなさいということになっております。本学もこれを何らかの形で設けなければならないと思います。これは意味のあることです。ただ、本学の特性や規模に応じた組織やシステムを考案しなければなりません。これも事務局ですでに準備作業していただいております。遅くとも第3期の始まる平成28年度には明確に表出しをしなければならないと思っております。

もう一つ大きな準備があります。第3期中期目標・中期計画を作成することです。この作り方についてすでに文部科学省から方針が示されております。本年6月までにこれを作り上げることが求められています。第3期中期目標・中期計画の中で、どういう具体的な達成目標を掲げるかということが運営費交付金に反映するとされています。これは大きな意味をもっています。これまでは目標自体の評価はされていなかったと思いますけれども、目標の内容に加えて、目標の水準の評価、つまり高いのか低いのかということが評価されるということです。低い目標をいくら掲げても評価はされないということになります。評価のありようが大きく変わるということです。したがって、こういうことを念頭において中期目標・中期計画を作っていくこととなります。

これはまだ確定はしていませんけれども、現在、運営費交付金について文部科学省の検討会議や首相の主宰する産業競争力会議などでいろいろ検討されております。国立大学を3つに分類するという案が示され、新聞報道もされております。グローバルな研究展開を行う大学、特定分野についての全国的な教育研究拠点となる大学、地域貢献型の大学ということで、分類ごとに配分基準が定められます。いずれかを各大学が自分で選ぶとされています。本学及び教員養成系の単科大学がどれになるのか、1番目はないですけれども、2番目なのか3番目なのかまだよくわからない状況です。先ほど申し上げた中期目標・中期計画の作成にも大きく関わります。

いずれにいたしましても、第3期への準備を精力的に進めていただきたいと思います。

いつも申し上げておりますように、変化への対応はいわばルーティンワークという考え方をしなければなりません。これは昨年この場で申し上げたと思います。変化対応は常態である、つまり変化に対応する取り組みをすることは、ルーティンワークであるということです。はっきりと申し上げて、変わらないところは生き残れないと言ってよいと思います。ですから、変化に対応することは、むしろ普通のことであるというくらいの考え方を持っていただかないとなかなか立ちゆかないと思います。

国立大学ですので、国の政策に即した改革を進めていかなければなりません。国の政策を後ろ向きに捉えるのではなく、本学の特性や持てる資源を活かしていろいろ工夫はできますので、前向きに取り組むということがきわめて重要です。言われるから仕方がないからやるでは、おもしろくないし、活気が出ないし、うまくいきません。言われたことに対して、どう本学の特性を生かして主体的につくるか、新しいものをつくるかということが大事です。そうすれば、自ずとうまくいきますし、楽しくもなり、やりがいも出てくるし、自分の成長にも繋がります。

最後に、先ほど第2期の成果のところでも述べましたように、本学の成果はあがっており、ステークホルダーである文部科学省や教育委員会などの評価は決して低くないことを申し上げておきたいと思っております。是非自信を持ってこの1年を取組んでいただいて、第3期に繋がればと思います。

これから新しい年度が始まるまでに3ヶ月あります。大学院の学生確保、大学院生・学部生の教員就職、さらには重要な入学試験がいくつもあります。しっかりと遂行していただきたいと思います。

それでは、本年が、本学と皆様にとって良い一年であることを祈念いたしまして、私の新年の挨拶といたしたいと思います。どうもありがとうございました。

平成27年1月7日 総合研究棟大会議室にて



— 学 事 —

○寄附金

寄附申込者	研究担当者	寄附の目的	金額（円）
兵庫教育大学附属小学校 育友会 会長 古跡真一		兵庫教育大学附属小学校の教育研究 の振興・充実等のため	2,400,000
兵庫教育大学附属幼稚園 育友会 会長 大関達也		兵庫教育大学附属幼稚園の教育研究 の振興・充実等のため	525,000

— 人 事 —

○人事異動

1. 事務職員

(1) 退職

平成26年12月31日付

元 職	氏 名	備 考
研究支援課情報システムチーム事務補佐員	田 村 陽 子	

— 諸 報 —

○国立大学法人兵庫教育大学役員会

第10回 平成26年12月10日（水）

(議題)

- 1 アジア教育交流基金の使途および名称の変更について
- 2 教職員の休職について

第11回 平成26年12月25日（木）

(議題)

- 1 国立大学法人兵庫教育大学教職員給与規程の一部改正について

○国立大学法人兵庫教育大学教育研究評議会

第10回 平成26年12月10日（水）

(議題)

- 1 学生の懲戒処分について
- 2 教員の選考について
- 3 教員の選考開始について
- 4 教職員の休職について
- 5 兵庫教育大学先導研究推進機構の設置について
- 6 平成27年度授業暦について

○兵庫教育大学大学院学校教育研究科・学校教育学部教授会

第9回 平成26年12月10日（水）

（議題）

- 1 教員候補者についての意見の取りまとめについて
- 2 平成26年度論文審査委員会委員候補予定者について
- 3 平成27年度授業科目の新設改廃等について
- 4 平成27年度開設授業科目等について
- 5 平成26年度授業科目担当教員の変更等について
- 6 平成27年度授業科目担当教員の変更等について
- 7 学生の学籍異動について
- 8 平成26年度兵庫教育大学免許法認定公開講座の単位認定について
- 9 外国人研究生の選考について

○兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科代議委員会

第7回 平成26年12月3日（水）

（議題）

- 1 論文提出による博士の学位論文審査委員会の設置について
- 2 論文提出による博士の学位論文の受理及び学位論文審査委員会の設置について
- 3 博士候補認定試験の実施について
- 4 平成26年度年度計画実績評価票(中間報告)及び平成27年度年度計画案の作成について

○平成26年度日本教職大学院協会研究大会を開催

12月6日（土）、7日（日）の2日間、日本教職大学院協会（会長：加治佐哲也本学学長）は、「教職大学院における学修の成果と課題－修了生の質保証のための取り組み－」をテーマとして、日本教職大学院協会研究大会を開催した。

研究大会の初日は、今後の教員養成の高度化に向けた教職大学院の教育・研究の充実を促進することを目的とした「実践研究成果公開フォーラム」を、東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター（東京都港区）を会場として開催した。

本フォーラムは今年度で3回目の開催となり、今回の発表大学である玉川大学及び早稲田大学の2私

立大学の教職大学院と、群馬大学、東京学芸大学、岐阜大学、静岡大学、福岡教育大学及び長崎大学の6国立大学教職大学院が2大学ずつ4箇所で開催で、教職大学院における実践的な教育・研究の成果等について発表を行った。

当日は文部科学省、教職大学院関係者、教育委員会関係者、学校関係者など約260人の参加があり、各大学による発表の後、活発な質疑なども行われた。



研究大会2日目は、一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）を会場として行われ、約360人の参加者のもと、加治佐哲也会長の挨拶及び、出口利定日本教育大学協会会長、伊藤俊典全日本中学校長会総務部長（松岡敬明全日本中学校長会会長代理）による来賓挨拶が行われた。その後、吉田大輔文部科学省高等教育局長による「大学改革の動向と教職大学院への期待」と題した基調講演が行われ、続いて、平千枝大学振興課教員養成企画室教職大学院係長から、教員養成改革の動きや教職大学院の発展・拡充の支援方策に関する情報提供が行われ、土曜学習応援団の取り組みについても説明が行われた。

午後からは、油布佐和子氏（早稲田大学大学院教職研究科教授）をコーディネーターとして、教職大学院の修了生である今隆史氏（東京都武蔵村山市立第四中学校教諭）と伊藤幸子氏（山口県光市立浅江中学校長）、並びに修了生の受入れ側や教職大学院への派遣元として、淵本幸嗣氏（福井市至民中学校長）、森嘉長氏（岐阜県教育委員会教職員課教育主管）の4氏をパネリストに迎え、本研究大会のテーマである「教職大学院における学修の成果と課題－修了生の質保証のための取り組み－」について、会場を交えた活発なディスカッションが行われた。

パネルディスカッション終了後は、篠原清昭教育委員会等連携検討委員会座長（岐阜大学教授）、大野裕己委員（本学教育実践高度化専攻准教授）及び辻野けんま委員（上越教育大学准教授）から、「教職大学院と教育関係者による学校管理職養成・研修の協働化」に関するアンケート調査結果の発表及び事例報告が行われた。

また、同会場の特別会議室においては、25の教職大学院から優れた学修成果をあげている教職大学院学生や修了生が、ポスターセッション形式により発表を行い、多くの参観者のもと発表者との間で活発な質疑を行う様子が見られた。

研究大会終了後は、情報交換会を開催し、文部科学省からは佐藤弘毅大学振興課教員養成企画室長及び平教職大学院係長をはじめとして、多くの教職大学院や教育委員会、学校関係者が参加し、終始和やかな雰囲気の中で活発な交流が行われ、今後の教職大学院の発展に期待を寄せつつ閉会した。



○附属幼稚園第3回幼年教育研究会を実施

12月6日（土）、附属幼稚園において、第3回幼年教育研究会を実施した。県内外から100人余りの参加者があり、「協同性を育て道徳性・規範意識の芽生えを培う指導の在り方」を研究テーマに、午前中の公開保育、午後の研究発表を通して、参加者と共に研修を深めた。

また、文部科学省初等中等教育局幼児教育課教科調査官の津金美智子先生を迎え、「遊びの中の学びの再考」と題する講演会は、参加者にとってわかりやすく、非常に参考になる内容であった。



○ボランティアステーション主催講演会を実施

12月9日（火）、共通講義棟において、作家の寮美千子氏を招いて、『詩が開いた心の扉』—空が青いから白をえらんだのです—（奈良少年刑務所詩集）と題したボランティアステーション主催講演会を実施した。学部生及び大学院生約60人の参加があった。

講演会では、奈良少年刑務所の「社会性涵養（かんよう）プログラム」に講師として長年関わってこられた寮氏から、詩や劇のプログラムを通して、心を閉ざしていた少年たちがだんだんと心を開き、自らの存在を認めていく様子などが臨場感たっぷりに話された。参加者からは、「刑務所というだけで、先入観を持ってしまいがちですが、しっかり人と向き合うことで自分から変わるんだと思いました」、「学校教育の中で言われている『待つ』教育が出てきて、どんな場面でも『待つ』ことが大事だと改めて思いました。将来先生になったときには、子どもたち同士の関わり合いを大切にできるように雰囲気づくりをしたいと思います」等の感想が聞かれた。また、「相手を受け止めることの大切さ」や「安心安全な環境づくりの大切さ」、子ども達への接し方などを学ぶ大変良い機会となった。



○附属幼稚園5歳児と附属中学校3年生との芋掘りによる交流を実施

12月9日（火）、附属中学校農園において、附属幼稚園5歳児と附属中学校3年生が、芋掘りによる交流を実施した。6月下旬に附属学校園「おやじの会」によりさつま芋の苗が植えられ、三畝とも中学校の教育活動に提供された。大収穫とはいかなかったが、園児と中学生が協力してさつま芋を掘り出す光景が見られ心温まる行事となった。



○子育て支援ルーム「GENKi」わくわくデーを実施

12月11日（木）、やまくにプラザの子育て支援ルーム「GENKi」において、子育て支援ルームと本学学生との連携イベント「わくわくデー」を実施した。本イベントは、幼年教育コースの大学院生が授業の一環として、子育て支援の実際について体験的に学ぶことを目的としており、昨年10月21日の子育て支援ルームの開所から2回目の実施となる。

今回は「みんなで楽しくクリスマスパーティ」と題して大学院1年生が手遊び、グラスやハンドベル演奏を披露した。ハンドベル演奏には授業担当の名須川知子人間発達教育専攻教授も参加してイベントを盛り上げた。

最後に、横川和章人間発達教育専攻教授がサンタクロース姿で登場し、子ども達一人ひとりに学部3年生が授業で作成したプレゼントを手渡した。

50組近い参加者の親子は、グラスやベルの奏でる音色に耳を傾け、サンタクロースの登場に子ども達は目を輝かせていた。



○日本文化研修旅行－日本人学生との交流を通して日本文化を学ぶ－を実施

12月13日（土）、14日（日）の2日間、日本人学生と外国人留学生在が、交流を通じて日本文化を学ぶとともに異文化に対する相互理解を図ることを目的として、日本文化研修旅行が実施され、外国人留學生53人、日本人学生21人が参加した。

今回の研修は、暖かい国々から来ている外国人留學生から、「今まで雪を見たことがない」という声が多く聞かれたため、日本の原風景を残す雪国の町として知られている岐阜県飛騨地方を研修先として選んだ。

1日目は郡上八幡を訪問し、日本独自の技術で開発された食品サンプル作りを体験した。外国人留學生はもちろんのこと日本人学生も食品サンプル作りを初めて体験する者がほとんどで、おぼつかない手つきながらも、エビの天ぷらとレタスの食品サンプル作りに挑戦し、できあがった美味しそうな自身の作品をお互いに見せ合うなど、大変和やかに交流が行われた。その後、飛騨高山市内に移動して、雪景色の中で実際に学生たちが雪に触れることとなった。暖かい国々から来ている外国人留學生たちは、歓声をあげて感動し、初めての雪を楽しんだ。

2日目は、外国人留學生と日本人学生が小グループに分かれて、高山市内を散策し、江戸時代以来保全されている古い町並みや伝統工芸品を見て、日本の文化を学んだ。また、朝市を見学し、地元の人達との交流を楽しみ、飛騨の小京都を堪能した。

今回の研修旅行を通して、文化の異なる学生たちが交流を行い、楽しく日本の文化や歴史を学ぶことができた。また、日本人学生が外国人留學生に対し

日本の歴史や文化を知ってもらおうと熱心に説明している姿が見られ、外国人留学生と日本人学生の距離がさらに縮まり、今後の国際交流事業の促進に繋がることが大いに期待できる日本文化研修旅行となった。



○加東市職員と本学職員の交流研修会を実施

12月15日（月）、加東市役所において、加東市職員と本学職員の交流研修会を実施した。

本研修は、地元自治体の職員と交流を行うことにより、大学の将来を担う若手職員の知見を深めることで、若手職員の人材育成を図るもので、加東市と大学とのネットワークを更に広げていくことを趣旨としており、加東市職員10人、本学職員10人が受講した。研修では、「市と大学がより密接な関係を築くために何ができるか」というテーマについて、市と大学との連携などさまざまな観点から、グループに分かれて検討し、発表が行われた。

受講者からは「交流を通して双方の強みや弱みを認識することができた」、「今回の研修で学んだことを、大学の発展に活かしていきたい」等の意見があり、意義のある研修となった。



○第16回図書館総合展ポスターセッションで特別賞を受賞

12月15日（月）、パシフィコ横浜で開催された第16回図書館総合展のポスターセッションにおいて、附属図書館が特別賞を受賞した。

これは、11月5日（水）から7日（金）の3日間開催された図書館総合展のポスターセッションでの受賞で、国立大学では唯一の受賞となった。

図書館総合展とは、年に一度図書館関連の人・モノ・サービスが集結し、フォーラムやイベントなどが集中開催される図書館界最大規模の展示会であり、今回ポスターセッションには計62作品の出展があり、観覧者の投票により受賞が決定した。

附属図書館では、学生の図書館・読書離れへの対応として、従来の選書のあり方や本の配架方法を見直し、蔵書活性化につながる新たなアイデアにチャレンジしていく「ボクブック・プロジェクト」を平成25年度より開始した。ポスターでは、Facebookを使って行う簡易選書アプリや教室に授業関連図書を展示し貸出手続きも行う出前貸出など、同プロジェクトを構成する4つの取り組みについて、動画やイラストを使いながらわかりやすく紹介した。



○全国市区町村教育長セミナーを開催

12月20日（土）から22日（月）の3日間、神戸ハーバーランドキャンパスにおいて、「全国市区町村教育長セミナー」を開催した。同セミナーは、地方分権化の進む教育行政において重要な役割を担う市

(区) 町村教育長のリーダーシップを支援するとともに、情報交換の場を提供とすることを目的としており、4年目となる今年度は、全国から49人の教育長が参加した。

1日目は、開講式において、加治佐哲也学長の挨拶、後藤恒裕全国都市教育長協議会会長、中島幸男全国町村教育長会会長による来賓挨拶が行われた後、オリエンテーションに引き続き、藤原和博教育改革実践家による「藤原和博の創造的学校マネジメント講座～管理職は管理を超えてマネジメントせよ！」と題した講話が行われた。午後から、前川喜平文部科学省文部科学審議官による「教育政策の動向と課題」と題した講話が行われ、どの講話も参加者らは熱心に耳を傾けるとともに、活発な質疑が行われた。また、同日情報交換会が開催され、時間いっぱいまで積極的な情報交換が行われた。

2日目は、教育行政能力育成カリキュラム開発室及び事業協力をいただいている株式会社リクルートマネジメントソリューションズによる「リーダーのための課題解決スキル～分析・構想～」と題した講義とグループワークを取り入れた演習が行われ、参加者らは演習課題に対して、積極的に提案するなど熱心に取り組んでいた。

最終日の午前には、Peter Earley ロンドン大学教授（通訳：北川香同大学研究員）による「学びのためのリーダーシップ」と題した講演が行われた。午後から、パネリストとして波佐間清下関市教育長及び水野和男東神楽町教育長を招き、教育実践高度化専攻の日渡田教授をコーディネーターとして「これからの教育と教育長としての役割」と題した全体協議が行われた。参加者から提供された話題などについて、意見・質疑を交えた活発な協議となった。引き続き、閉講式が行われ、加治佐学長からセミナーに参加した教育長に修了証書が授与された。その後、受講者を代表して福岡憲助芦屋市教育長から「同じ教育長の立場である皆さんと、集中した中で意見を出し合うことが新鮮でとても勉強になった」と感想が述べられた後、加治佐学長から「共通の感心を持った人たちがコラボレーションして、レベルの高いリフレクションを行うことが重要であり、そのような場を今後とも提供していきたい」と挨拶が行われ、3日間の全日程を終了した。



○平成26年度ホスピタリティ研修報告会を開催

12月24日（水）、小講堂（仮称）において、9月26日に実施したホスピタリティ研修の報告会を開催した。

本研修は、東京ディズニーリゾートのビジネスを支え続ける「ホスピタリティ＝おもてなしの心」を学ぶことで、今後の業務に生かし職員の資質向上を図ることを目的としたものである。本報告会には、事務職員等30人が参加し、研修への関心の高さが窺えた。

当日は、原田総務課長の挨拶の後、ホスピタリティ研修者10人から各班の研修テーマに基づく報告及び、質疑応答を行った後、加治佐哲也学長が総評した。



○小講堂（仮称）の建物名称及び愛称の決定について

10月30日（木）に竣工した小講堂（仮称）の建物名称は『教育子午線ホール』と命名された。

また、11月に公募した愛称については、32件の応募があり、総務課職員の山下真人さんの『子午線ホール』に決定し「学長賞」を賞与することになった。

選考理由は次のとおりである。加東市には、日本の標準時を刻む子午線（東経135度）が通っており、兵庫教育大学は、この子午線を跨ぎ、東西に嬉野台地区キャンパスと山国地区キャンパスを有している。また、兵庫教育大学は、現教職員への大学院教育を提供する修士課程を有する新構想の教員養成大学として、昭和53年に国の方針により設置され、国立の教育大学として最先端の教員養成の在り方について実践的に研究を行い、全国に発信してきたところである。このことは、わが国の教員養成の標準時（スタンダード）を刻む取り組みであり、これらのことを踏まえた名称であるとして決定された。

なお、その他に「アイディア賞」が2点選ばれた。

この『教育子午線ホール』＝愛称『子午線ホール』に親しみをもって、末永く活用されることを願っている。



— 12月主要日誌 —

月 日	事 項
12月1日(月)	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第5回）
2日(火)	研究推進委員会（第4回）
3日(水)	企画運営会議（第6回）

	連合学校教育学研究科代議委員会（第7回）
	附属図書館運営委員会（第3回）
	学生委員会（第7回）
5日(金)	附属小学校第35回マラソン大会
6日(土)	日本教職大学院協会研究大会（～7日）
	附属幼稚園第3回幼年教育研究会
9日(火)	附属小学校PTA文化部主催「芸術鑑賞会」
	附属幼稚園5歳児と附属中学校3年生との芋掘りによる交流
10日(水)	役員会（第10回）
	教育研究評議会（第10回）
	研究科・学部教授会（第9回）
11日(木)	子育て支援ルーム「GENKi」わくわくデー
	評価委員会（第5回）
	大学情報委員会（第1回）
12日(金)	学校教育学部入学試験委員会（第5回）
	大学院学校教育研究科入学試験委員会（第9回）
13日(土)	日本文化研修旅行（～14日）
	附属幼稚園「ふよっこデー」
15日(月)	加東市職員と本学職員の交流研修会
17日(水)	附属幼稚園クリスマス会
20日(土)	全国市区町村教育長セミナー（～22日）
	連合大学院学生研究発表会（～21日）
24日(水)	大学院学校教育研究科教務委員会（第9回）
	学校教育学部教務委員会（第9回）
	学校教育学部入学試験委員会（第6回）
	ホスピタリティ研修報告会
25日(木)	役員会（第11回）
	全学教職員会議（第4回）

編集発行 兵庫教育大学総務部総務課

〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1

電話 (0795) 44-2431

<http://www.hyogo-u.ac.jp/>